

経過

防災塾・だるま

- (1) 港中学校大島校長から相談を受けた神奈川大学・入江教授(だるま顧問)がだるまの活動を紹介。
- (2) 桂本塾長・池田さん・高松さんが港中学を訪問し、だるま支援で合意。主体はあくまで港中学校。
- (3) 2012年度(平成25年度)第3学期に教職員研修会(1月8日(火))と防災教育授業(2月28日(木))を実施し、来年度以降の防災教育に繋げて行く。

横浜市立・港中学校



港中学校：地域防災拠点

《港中学》

- ◆1947年(昭和22年)開校、翌年現在地移転。港中学校と改名。
- ◆生徒：約360名(うち約30%は中国等外国系)
教職員：37名(現在)
- ◆学区内に横浜中華街・元町商店街・山下公園等の観光地。
- ◆地域防災拠点となっている。
～防災教育実績～
- ◆3校合同訓練：津波対策(港中学・みなと総合高校・中華学院)

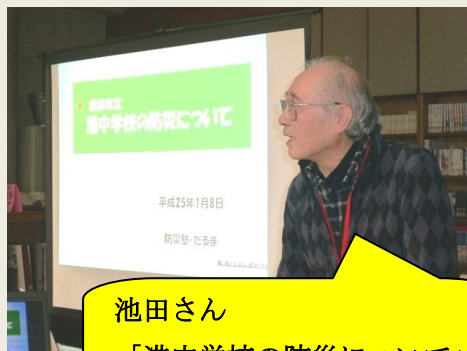
はじめに

《大島校長》
～開会あいさつ～



《港中学校・教職員防災研修会の概要》

- ◆2013年(平成25年)1月8日(火) 15:00~17:00 会場：港中学図書室
- ◆参加者(敬称略)
港中学校(約30名)：大島校長、鈴木副校長、植松防災担当・大場・大森、山下教務主任、港中学教職員
だるま(計10名)：高松(リーダー)・池田・片山・加藤(清)・山口(昭)・佐々木・田中(喜)・中島・中村(茂)・成松
- ◆進行：
 - 15:00~15:05 大島校長(あいさつ)
 - 15:05~15:40 レクチャー 「港中学校の防災について」(池田さん)
「地震災害の想定と防災減災の考え方」(片山さん)
 - 15:50~16:00 クロスロード説明(加藤さん)
 - 16:00~16:40 クロスロード(5名x5グループ、ファシリテーター：だるまメンバー)
 - 16:40~16:55 グループ発表
 - 16:55~17:00 鈴木副校長、高松さん・池田さん(まとめ・あいさつ)



池田さん

「港中学校の防災について」

* 震災被害は多種多様 イメージが重要！

大地震→家屋倒壊、津波、火災

1. 事前：災害に備える減災の準備
 2. 発災時：自分・家族の命を守る行動
 3. 発災後：安否確認・救助救命・初期消火
- 帰宅困難者・災害弱者への対応

1・関東大震災



震源：相模湾 M7.9
発生：1923年（大正12年）9月1日11時58分
死者：10万5千人
被災者：人口・45万人、死者・2万1千
特徴：東京・横浜という大都市での大災害
死因：震災後の火災

3・阪神淡路大震災



震源：兵庫県 M7.2
発生：1995年（平成7年）1月17日 4時
死者：6435人
特徴：大都市直下型
死因：家屋の倒壊・圧死

*「釜石の奇跡!？」



* 悲しみの 大川小学校 (石巻市立)



片山さん

「地震災害の想定と防災減災の考え」

防災・減災、取り組みのポイント

- ・最悪の事態想定が減災活動の第一歩
- ・発災直後は近隣地域でしか対応できない
- ・一般論でなく、地元にあった対策を考える
- ・取り返しの付かないことを優先する
- ・仕組みと絆とが両輪で効果を発揮する



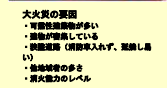
最悪の可能性被害想定(死者数)

関東大震災時の東京市人口220万人、横浜市45万人
現東京都1,322万人、横浜市370万人、当時の6.4倍
関東大震災で10万5千人の死者だった。人口比例では
東京と横浜で 67万人
横浜で 14.6万人
中区で 5,840人 (14.8万人)
港中学で 16人 (生徒+教職員 計405人)



大火災の脅威

大火災では火災発生が
起こる可能性がある。
火災に巻き込まれると
死亡による被害や重大な
怪我による被害の恐れが大きい。



大火災の要因
・建物密集地が多い
・建物密集地が多い
・狭い道路（消防車入れず、消防し
い）
・危険物の多い
・消火能力のレベル

中継地区は？！

災害対策と対応について

- ・あわてて外に飛び出さない
それは適切ですか？
(大地震死者の80%は家屋の中)



- ・グラツキタリ機の下は、必ずしも適切ではありません。
何から身を守るのか？
視野が狭くなり、俊敏な動作が困難



我が家の内外で最も安全な場所を
確認しておこう

(一般に玄関は ①狭くて丈夫、②大型家具がない、③出口そのもの、
④廃物がある、と良い条件がそろっている)

港中学校は地域防災拠点ですが・・・

地域防災拠点とは、主として地域の方々により、防災資機材を用
いての救命救出活動と避難生活をする場所です。
これらは、発災直後ではなく、少し時間が経過してから活動
になると考えられます。

学校では発災直後に在校生が犠牲にならないことを最優先し、
そして過信をしない対策と行動が大切です。

・校内の危険場所と安全ゾーンの確認

- ・危険物の排除や固定
- ・在校生全員の短時間安否確認
- ・生徒自らの行動の考え方や指針
- ・情報収集と臨機応変の判断力



実践的防災訓練

リアルタイムでの不意打ち訓練

- A. 地震発生時に伏せ報告
- B. 訓練中に、予期せぬ別の指示を出す

安否確認など活動の最中にトランシーブを通して
予告なしに緊急な指示を出す(B)



火災発生A・B・Cさんは
消火器を持って現場に行け

係長Aあり、D・E・Fさんは
車椅子で本部まで連れて
来い

年	訓練	備考
2006	4	不意打ち訓練(A)
2006	7	不意打ち訓練(A)
2007	4	不意打ち訓練(A)
2008	8	不意打ち訓練(A)
2009	7	不意打ち訓練(A)
2010	8	不意打ち訓練(A)
2011	8	不意打ち訓練(A)
2012	14	不意打ち訓練(A)

クロスロード



加藤さん
「クロスロード」の説明



加藤さん・高松さん

地域の特性も盛り込んだ設問を用意しました
・・・「正解を求めるゲームではありません！」

【設問例】。

設問4)「貴方は先生です。近くで火災が発生しました、消防に問い合わせたいけれど電話が通じません、心配です、生徒を地割れした道路を縫って横浜公園に避難させる？」

設問5)「貴方は先生です。避難所運営委員から“人手が足りないので生徒に手伝ってもらいたい”との申し入れがありました、生徒がばらばらに動くと言管理が出来ない、万一の時責任を取れないので断る？」

5グループ(各5名)に分かれて

◇まずリーダーと発表者を決める

(だるまメンバーはファシリテーターとしてサポート)

◇ゲーム開始・・・40分間・・・熱心な発言が続いた！

《グループ発表》

- ◆何よりもまず“命を守る”“サバイバル”そして“助ける”・・・二重遭難は避ける。
- ◆地域の特性もシッカリ頭に入れて判断を・・・火災・・・津波・・・地域防災拠点として。
- ◆情報収集が重要、その上で最善の判断を！

～感想～

◇さまざまな意見を聞き、「なるほど」と感じる人がたくさんあった。

◇防災を考え、訓練する機会を積み重ねていくことが大切と感じた。

まとめ

《鈴木副校長》

～まとめ・あいさつ～



～訪問した様々な被災地での経験に触れながら～

◇港中学校を取り巻く状況・環境について

◇港中学校にとっての防災教育・防災への取り組みの重要性について

◇今後の取り組みに繋げ、積み重ねていく

★大変よい勉強会になった、防災塾・だるまの支援に感謝！

～最後に、高松さん・池田さんから～

◇港中学校のこのような取り組みが毎年継続して積み重ねられることを期待する。

◇防災塾・だるまにとっても新しい試み。支援を継続したい。

★防災塾・だるまの活動を紹介、港中学校の先生方へ「談義の会などへの参加は大歓迎です！」



高松リーダー

港中学校の皆さん
だるまの皆さん
ありがとうございました！